

下関市立歴史博物館企画展

毛利元敏

— 趣味と郷土を愛した最後の殿様 —



令和6年 12.6 金 ▶ 2.9 日 令和7年

下関市立歴史博物館

Shimonoseki City Museum of History

〒752-0979 山口県下関市長府川端二丁目2番27号

Tel.083-241-1080 <https://www.shimohaku.jp>

■開館時間:9時30分~17時(入館は16時30分まで)

■休館日:毎週月曜日

年未年始(12月28日~1月4日)

※1月13日は開館し、翌14日休館

■駐車場:一般26台(有料) 身障者用2台(無料)

■観覧料:一般210円(160円) 大学生等100円(80円)

※()内は20名以上の団体料金

※下関市内に居住する65歳以上の方は観覧料100円(要公的証明書)

※18歳以下の方、障害者手帳をお持ちの方は観覧料無料(要公的証明書)

イベント情報

企画展開連講座 最後の長府藩主毛利元敏

— その素顔と郷土への想い —

日時:令和7年1月15日(水)・1月19日(日) 各日10時30分~11時30分

※内容はいずれも同じ ※各回定員35名

講師:下関市立歴史博物館 学芸員 松田和也

資料代:300円

場所:下関市立歴史博物館 ガイダンス交流室

予約:令和6年12月6日(金)9時30分から博物館受付、または電話にて受付開始

豊浦小学校6年2組とのコラボ企画実施!

WEATHER CHARTS AND STORMWARNINGS:部分(当館蔵) 毛利元敏写真:部分(当館蔵)
長府毛利邸図面:部分(当館蔵) 毛利元敏自画賛 春草図:部分(当館蔵)

毛利元敏

— 趣味と郷土を愛した最後の殿様 —

毛利元敏は、現在の下関地域の大部分を治めた長府藩の14代藩主です。最後の長府藩主となった元敏は、豊浦藩知事を経て、明治4年(1871)の廃藩置県によって東京へ移住。移住後は、イギリス留学を経験し、農場を経営するなど、華族として新たな人生を歩みました。しかし、郷土への想いは絶ち難く、明治24年(1891)に東京から長府へ帰住しました。長府では、自らの居宅として長府毛利邸を建設。長府毛利邸は、現在下関市の観光地の1つとして知られます。また、近隣の学校に寄附をおこなうなど、郷土に様々な足跡を遺しました。さらに、元敏は和歌を始めとして気象観測や洋食など多彩な趣味を嗜み、それらを通じた郷土の人々との交流も盛んでした。本展覧会では、江戸から明治という時代の大きな転換期を生きた元敏の生涯を辿るとともに、彼の個性や郷土への想いなどを紹介します。

子爵毛利家として



爵位(当館蔵)



毛利元敏自画賛 春草図(当館蔵)

描いたのはわらび? ぜんまい?



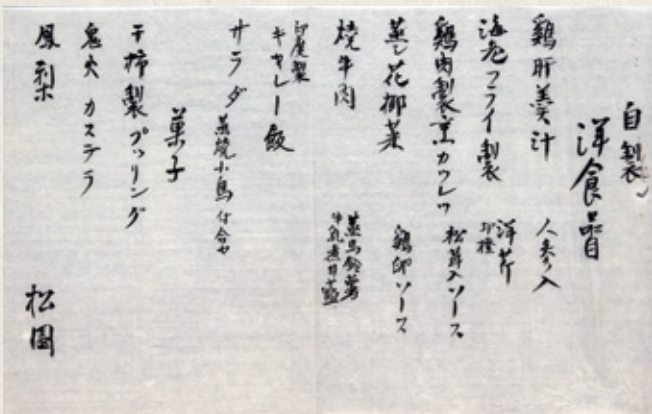
毛利元敏写真(当館蔵)

異国でのワンショット



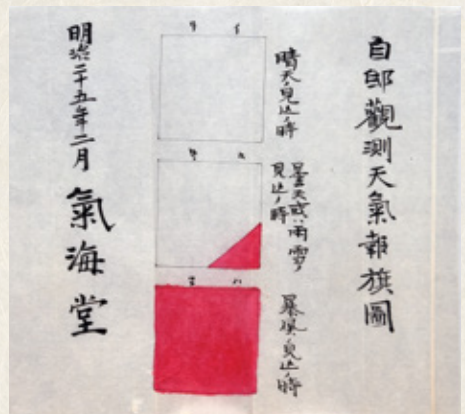
長府毛利邸写真(当館蔵)

今も遺る長府の観光名所



自製洋食品目(当館蔵)

元敏のおもてなし



毛利元敏書簡・部分(当館蔵)

これが元敏式天気予報



担当学芸員 松田和也

毛利元敏は、旧長府藩士から「平民的の殿様」と評されたといわれます。洒落の利いた書画や、旧藩士らと交わした書簡などからは、そんな元敏の素顔が垣間見えますので、是非ご覧ください。

下関市立歴史博物館

〒752-0979 山口県下関市長府川端二丁目2番27号
Tel.083-241-1080 <https://www.shimohaku.jp>

交通のご案内	
●公共交通機関	
JR下関駅	長府・小月・宇部・秋芳・長門・西市方面行きバス 所要時間約25分
JR新下関駅	バス停「城下町長府」を経由する「マリナランド」または「下関駅」行きバス 所要時間約20分
JR長府駅	バス停「長府駅前」から下関方面行きバス 所要時間約10分
●自動車	
下関I.C	堀ノ浦方面へ進み、国道9号線経由 所要時間約20分 長府方面へ進み、国道2号線経由 所要時間約15分

